

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371301124		
法人名	株式会社アイ・ユネット		
事業所名	グループホーム とまり木守山		
所在地	名古屋市守山区翠松園二丁目2101番地 (電話) 052-797-8108		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年7月31日	評価確定日	平成19年8月30日

## 【情報提供票より】(平成19年7月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 6月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤 5人, 非常勤 21人,	常勤換算6.4人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2 階建ての	1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,800 円	その他の経費(月額)	23,550 円	
敷金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	375 円
	夕食	375 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		円	

### (4) 利用者の概要(平成19年7月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名	
要介護1	10名	要介護2	6名			
要介護3	1名	要介護4	0名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	82 歳	最低	60 歳	最高	94 歳
協力医療機関名	種田クリニック					

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは緑豊かで閑静な住宅地にある。玄関までの手すり付きスロープには、花やベンチが置かれ歩行練習もできる。横庭には家庭菜園や果樹園、花が植えられ、収穫した野菜が食卓に並ぶこともある。感謝や尊敬の気持ちを持ち、入居者を「お客様扱い」せず、意思を尊重し寄り添った介護に努めている。日々の言動や行動から意向を汲み取り無理強いせず、入居者本人が楽しんでできるよう、時にはさりげなく懐しい物品を置き、活動意欲につながるよう工夫している。明るく広々としたフロアには入居者の作品が飾られ、優れていることや頑張ったことに対して全員に表彰をしている。風致地区にあるため環境作りに協力しながら、地域の人々との交流を深め地域に根ざしたホームを目指している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	3つの課題項目すべて改善策を考え実施している。入浴は週3回往診日以外毎日実施。ストレス解消策として毎週水曜日を相談日として管理者が対応し、家族も利用できる。区の担当者との会議報告をし情報交換に努める。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意義や目的を全体ミーティングで話し合い、全職員で自己評価に取り組んだ。職員からは、「難しく大変だったが自分ができるようになってきたことについて気付くことができ、日頃の業務を見直すことができた」などの声が聞かれた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議の内容は、行事報告、医療連携報告、外部評価の結果報告、改善項目への取組み、外部研修の内容報告などである。認知症について理解を深めるために外部研修の資料を利用して説明し、質疑応答や意見交換を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族へは、面会時や書類発送時、意見等の申し出を伝えている。面会時や運営推進会議の場のみならず、水曜日の相談日にも意見・苦情・不安等に対応している。家族会については「気軽に交流できる場」として設置へ向け検討している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会、自治会に加入し、お祭り、運動会、盆踊りなどの行事に参加したり、ごみ当番や花の提供、防犯パトロールなどで地域の一員としての役割を果たしている。散歩時には積極的に挨拶したり、ゴミ袋持参でゴミ拾いをするなど地域の人々との交流に努めており、ホームへの見学者もでき、地域にとけこんできている。また、災害時地域の避難場所への申し入れをしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「最善の介護サービスを最高の誠意と人間愛をもって」という支援理念のもと、「地域社会への貢献」を謳っている。地域行事に参加することで地域交流を図り、地域の一員として暮らしを続けることを支援する理念となっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は名札の裏に理念を入れて、日々確認している。管理者は常々、まず入居者のことを第1に考え、意思を尊重し寄り添った介護の実践を目指している。職員へは「一人ひとりの行動を敏感に感じ取り、原点に立ち戻りケアについて考えるように」と話している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者一人ひとりが町内会員で、ホームは組長としてゴミ当番などを行っている。防犯パトロール、清掃、草刈りや学区の行事（盆踊り、お祭り、運動会）に参加し、地域の方々と共に活動することにより、情報収集や交流を深めている。民生委員や地域の人がホームの見学に訪れることもありホームの行事案内を地域の掲示板に掲示している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の実施にあたり、全体ミーティングで意義などを話し合い、全職員で自己評価に取り組んだ。また、前回の評価結果も全員に報告し、課題3項目「市町村との関係、入浴、ストレス解消策の実施」について話し合い、すぐに具体的改善策を実施しており、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>自治会長、民生委員、内科医、家族がメンバーとなり、昨年10月より4回開催している。内容は、行事報告、外部評価の結果報告、改善項目への取り組み、医療連携報告などで、活発に意見交換されている。また、外部研修の資料を利用して、認知症への理解を深める為の説明もしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の介護保険指導グループと運営に関して意見交換をしている。区役所の担当者に行事報告や運営推進会議議事録を渡して情報提供し、連携している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、行事報告書や行事の際の写真、行事予定表を郵送し暮らしぶりを伝えている。健康状態に変化があった場合は、すぐに連絡をとっている。金銭面では、家族の承諾のもと、金銭に触れる機会づくりをし、請求書と使途明細書で報告し、確認してもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族等へは面会時や書類発送時に意見、苦情等の申し出を繰り返し伝えている。運営推進会議でも意見を頂き反映させている。水曜日の相談日は家族も利用できる。現在、家族会はないが、今後「気軽にお茶など飲んで交流できる場」として設置へ向け、検討していきたいと考えている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動、配置換えは入居者への影響を最小限に抑えるよう配慮している。馴染みの職員が対応することが大切であると考え、代わった場合は、きちんと紹介し、今まで退職などによるダメージはほとんどなく、スムーズに移行できている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアにおいては、現場で働きながら学び、経験することが大切と考え、外部研修に業務として参加できるよう配慮している。参加者は、資料を配布し、全体ミーティングで報告、周知徹底を図っている。新任職員へは、マンツーマンで仕事全般の研修を実施している。		
11	20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者のネットワークには加入していないが、研修、講習会に参加して意見交換や情報交換している。今までに市内のホームの見学にも出かけ、守山区内のホームも見学し参考にしたいと考えている。同法人の名東区のホームとも交流している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面談時には、本人の来所をお願いし、入居者とのコミュニケーションなどで、ホームの雰囲気を感じ取ってもらうようにしている。入院の方には、管理者が何度か面会に行き、本人の状況を把握し安心してもらえるよう努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	尊敬や感謝の気持ちを持ち、入居者本人の意思を第1に考え、できることは一緒に行っている。生活の知恵を調理や家事から学ぶこともあり、職員が入居者からいたわりの言葉をかけてもらうこともある。昔の生活歴を知り、喜怒哀楽を共にし共感し、支えあう関係づくりに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のケアの中で、言葉や行動から本人の意向をくみ取るようにしている。コミュニケーションの少ない方には、相談室を利用して、気持ちを引き出し職員へ伝えたり、ご家族と相談したり、生活歴を参考にしたりしている。ご本人の出来ることを職員が考え継続的に支援している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>理念をふまえ、本人、家族、担当者等の意見、要望を聞き介護計画を作成している。日々対応したケア、気づきや失敗も含めて、カルテに記録し、共有し介護に活かしている。一人ひとりの能力に合わせてできること、好きなことを更にのばしていけるような計画を心がけている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3カ月毎に見直しを行っている。週1回のカンファレンスで職員間の意見交換をし、月1回の全体ミーティングでモニタリングを行い、家族や本人の希望を聞き計画を見直している。管理者は1週間毎に何か変化があれば、ノートに記録しておき、計画作成担当者が介護計画に反映できるよう努めている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院の際には面会に出かけたりして、家族と共に医師との話し合いに参加したり、必要に応じて情報提供し、早期退院に協力している。本人、家族の状況に応じて、通院等必要な支援は柔軟に対応している。家族と協力して医療処置を受けながら、ホームでの生活を続けている方もある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回、ホームのかかりつけ医の往診がある。以前のかかりつけ医での受療支援も行っている。家族と協力して、通院介助を行い、ケアについての疑問点を解決したり、家族のみで通院の場合には、前もって質問事項を依頼し、状況の把握に努めている。毎週、訪問看護ステーションの健康チェック等も受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前に、家族に重度化に係る指針を示し、対応できること、できないことを説明し、同意を得ている。状況が変わった場合は、その都度話し合い、意向を大切に、支援につなげている。職員へは家族の希望も伝えて話し合っている。ケアに関しては医師の指導のもと勉強している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	「心の中のプライバシー」を意識し、一人ひとりの誇りや、プライバシーを損なわない言葉かけ、生きてこられた時代背景を考えた対応を心がけている。言葉かけや接遇のチェックを定期的に行い意識向上を目指している。秘密保持や個人情報の漏洩防止にも努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、一人ひとりの健康や精神状態に合わせた対応、支援をしている。レクリエーション活動は、本人の意思を尊重し無理強いせず意欲を引き出すようにしている。本人の希望による個別外出が、多くの人の協力も得て思い出に残るミニ同窓会になったケースもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、食事の準備、調理、後片付けなど各々の力を活かしながら職員と共に行っている。好みのメニューを取り入れたり、レクリエーションで「とまり木食堂」を開店し、人気メニューでお店気分を味わったり、個別外出に出かけたりしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	往診日の水曜日以外、週6日間希望に応じて入浴できる。シャワーは午前中も含めて随時使用できる。入浴を拒む人には、言葉がけの工夫をしたり、時には家族の協力を得て一緒に入浴してもらうこともある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーション活動一覧表に一人ひとりの好きなこと、できそうなこと、得意なことなどを記入し、力を活かした役割や楽しみごと気晴らしの支援をしている。時にはさりげなく昔懐かしい物品などで場面作りをして活力を引き出している。訪問時、棒針で編み物をしたり、計算プリントを行っている姿が見られた。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日はホーム周辺を散歩したり、手すり付きスロープで歩行練習をしたりしている。緑が多い戸外へ出るとは、気分転換や五感刺激となり、横庭のテーブルでお茶を楽しむこともある。月1回外出に出かけたり、個別で居酒屋や生誕地を訪ねたこともある。毎月バス旅行を計画し、刈谷オアシスや昭和村へ出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員一人ひとりが見守りの意識を持ち、施錠はしていない。帰宅願望の際には、無理に止めることはせず、一緒に散歩したり、さりげなく見守り、安全面に配慮し自由な暮らしを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2か月に1回、意識強化や避難経路確認のため、職員、入居者が参加し避難訓練を実施している。消防署と連携した訓練も年1回行い、また、救急救命の講習会も実施している。地域への協力として、地域の避難場所への申し入れをしている。災害に備えて、備品や飲料水を準備している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1,600cal程度のメニューで、毎日食事の摂取量を記録している。水分量は必要に応じて細かく把握し、野菜嫌いの方には、野菜ジュースを、入浴後にはスポーツ飲料を提供している。便秘予防に野菜や牛乳の摂取に心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入口の前にはベンチがあり、手作りの掲示板には、行事の案内が貼られ、季節の花が咲いている。リビングは広くゆったりとしており、天井は吹き抜けで明るく、天窓は布を使って日差しがまぶしすぎないようにしている。食事中は、テレビを切り音楽を流している。食卓の椅子の足にはカバーをかぶせ、取り扱いやすい工夫がある。壁には手作りの共同作品なども飾られている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みの家具、写真、思い出の品などが持ち込まれ、自作の絵や職員からもらった表彰状などが飾られている。畳の和室も6部屋あり、その人に合った環境づくりがされており、居心地よく過ごせる場所となっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。